

F: 医療経済・社会科学

社会科学 No.4

医療とジェンダー —— 女性医師・患者の性差・医学研究のジェンダーバイアス

★ この講座では大学の医療社会学・ジェンダー医学・フェミニスト科学論の知識を使います。採点者は大学教員です。「性差医学 (sex-based medicine)」「ジェンダーバイアスによる研究の外的妥当性の問題」「女性医師のガラスの天井」といった大学レベルの概念を使うと、他の受験生と突出した答案になります。

導入文

「女性医師が増えた」という事実の裏に、大学の医療社会学・ジェンダー医学では「なぜ女性は医療意思決定から長く排除されてきたのか」「臨床試験の被験者が長く男性に偏り、女性患者に適合しない治療が標準化されてきた」という批判的視点がある。性差医学・ジェンダーバイアスという概念を使うと、採点者（大学教員）に「医学研究の構造的問題を知っている」と伝わり、他の受験生と突出する。

講義概要

医療とジェンダーを「女性医師の労働環境」「患者の性差（性差医学）」「医学研究のジェンダーバイアス（臨床試験の男性偏重）」の3軸で体系化する。女性医師の専門科偏在・育児と当直の両立問題、心筋梗塞の症状の性差、ホルモン療法の長期追跡研究をめぐる議論まで整理し、ジェンダー公平な医療を論じられる力を育てる。

授業目標：医療とジェンダーを「多様性が大切」という感想から、医療社会学・性差医学の概念で構造的に論証できる対象へ変える。

対象者：高2～高3・浪人生。医学部志望で、ジェンダー医学・医師の労働環境を深く論じたい生徒。

授業時間：授業90分＋演習・質疑応答30分

到達目標：性差医学の概念を説明できる／医学研究のジェンダーバイアスを具体例で論じられる／女性医師の労働問題を構造的に話れる

授業構成（90分）＋演習・質疑応答（30分）

授業90分：1 導入：「なぜ心筋梗塞の教科書の症状は女性に当てはまりにくいのか」を問いとして提示 2 性差医学：生物学的性差（sex）と社会的性差（gender）の区別 3 研究バイアス：臨床試験の男性偏重とその影響 4 具体例：心筋梗塞・疼痛・薬剤の性差の事例 5 女性医師の労働問題：専門科偏在・育児・ガラスの天井 6 ジェンダー公平な医療：性差を考慮した治療ガイドライン 7 演習：「医学研究のジェンダーバイアスが患者に与える影響」を論じる

追加30分：「ジェンダー公平な医療を実現するために医師として何ができるか」を3軸で300字論述する演習と質疑応答を行う。

板書・スライド骨子：性差医学の定義／臨床試験の男性偏重の歴史／心筋梗塞の性差の事例／女性医師の労働環境の整理

課題：「医学研究における男性偏重が女性患者の治療に与える影響」を性差医学の視点から200字で論じる。

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡しの基礎確認をしたい方にも対応。